

## 2023年全国大会宣言

2023年9月23日から24日にかけて、全国市民オンブズマン仙台大会を開催した。30回の節目を迎えた大会で、私たちは「DX って何だ？ 退化する情報公開」というメインテーマを掲げ、総務省が進める自治体 DX 推進計画の一方で、情報公開制度がどのように扱われているかを調査した。ところが、多くの自治体では情報公開の利便性は限定的で、かえって自治体情報のデジタル化を契機として、利用者にコストを付加する自治体も現れた。こうした動きは情報公開請求に受益者負担の発想をもちこむものであり、民主主義のために必要不可欠な情報公開の理念に逆行する。

また、今回調査した権利濫用条項は、自治体によって基準や手続が整備されていない実情も明らかになった。これが情報公開における受益者負担の発想とつながるとき、情報公開そのものが否定されるおそれを指摘した。

一方で、市民に対する情報公開がもっとも遅れている政務活動費について、今年も全国で不正支出が相次いだ。「情報が公開されない公金支出に腐敗あり」という事実は、私たちの発足当時から30回の大会を経ても真実でありつづけている。私たちはあらためて政務活動費の用途について監視を続けていかなければならないことを確認した。

さらに、今大会では、マイナ保険証の問題点について議論した。長年培われた地域医療の実情を無視した、実情に合わない不便なデジタル化の強制という時代錯誤の政策が、地域医療の崩壊と、住民に大混乱をもたらしていることが報告された。

30回を記念する今大会の座談会で、情報公開によって得られた事実をもとに議論をすること、仲間と一緒に楽しんで活動することが市民オンブズマンの核であることを確認した。そのうえで、情報公開制度の真のデジタル化が、市民によるデータベースの構築を促し、これを市民による行政監視の大きな武器とする将来への展望をもち、以下のとおり宣言する。

### 記

1. 市民が使いやすい情報公開制度のデジタル化を進めさせること
2. 権利としての情報公開を実現させるため、情報公開請求に対する受益者負担の導入を監視すること
3. 情報公開請求の権利濫用が「濫用」されることがないように、監視を続けること
4. 現行の健康保険証を維持することを前提に、マイナ保険証一本化の見直しを求めること
5. 市民オンブズマン活動で培った知識・経験・情熱を次世代や地域に広げていくこと

以上